

# 物価高騰で苦しむ市民をさらに苦境に陥れる 市バス・水道料金の値上げやめよ!

12月8日に神戸市会本会議がひらかれ、日本共産党神戸市会議員団を代表して松本のり子議員と西ただす議員が一般質問に登壇しました。

物価高騰が暮らしと営業を直撃し、市民の生活に深刻な打撃となっています。このような時に神戸市は、人口減少を理由に、日々の暮らしに必要な市バスの運賃と水道料金の値上げを進めようとしています。人口減少の中で「独立

採算制」を根拠に進めていけば、市民に負担を求めるか市民サービスの縮小しかありません。松本議員は、市民サービスを維持するためには、神戸市が責任をもって負担すべきと質しました。

## 松本議員が 一般質問



## 質疑項目

1. 物価高のもとでの市バス・水道料金の値上げ中止について
2. ライフパートナー制度について
3. 地域図書館について

能や認知機能の低下だ。市民の健康がどうなるのか、医療や介護保険の増加など、施策全体で考えて財政計画をつくるべきだ。

**今西副市長：**できるだけ健康な高齢者に外出していただくために敬老パスで支援している。

**松本議員：**本当に市民の声を聞き神戸市全体でどのような変化が起きるのか検討したのか。

**今西副市長：**できる限り影響を考慮しながら予算編成をおこなっている。

**松本議員：**水道にしても兵庫県は供給単価を下げているのに神戸市が上げるのはどうなのか。神戸市は去年から始めた三宮周辺の市バス運賃を半額にする実証実験の目的は「まちづくり施策に寄与」することだ。本当のまちづくりは、その地域に住む人にどう寄り添うかだ。

含めて家族として宣誓する「ファミリーシップ」制度を

実施すべきと質しました。

## 答弁ダイジェスト

**久元市長：**地方公営企業は独立採算制を原則とし、一般会計からの基準外繰り出しは適当ではない。

**松本議員：**ヨーロッパなどでは、住民の移動を公的に支える制度としてバスを無料にしている。一般会計からの繰り入れをすべきだ。またパリでは、市民が通勤に使うバスや鉄道は企業に負担を求めている。神戸市でも大手企業に対して地域公共交通を守る基金をつくり財政を確保しては

どうか。

**久元市長：**わが国でも公共交通を公的負担すべきだという議論は強くなっているが、市単独で新たな制度を設けるには法律上の制約もあり、沿線の企業に負担を求めることに理解が得られるかは研究しなければならない。

**松本議員：**一般会計の投入がなければ、さらにバスを減らすか利用者に負担をかけるしかない。生活が厳しい中で値上げで考えられるのは、外出が減る高齢者の身体的機

## ライフパートナー制度

# 性的マイノリティの方も 法律婚と同じような制度に

神戸市は、ライフパートナー制度の素案を公表しました。この制度は、お互いを人生のパートナーとして尊重し、共同生活を営む二人が市に宣誓し、市が受領証を交付するものです。素案では、3年ごとに関係が続いているのかを確認する連絡をおこな

うとしています。他の政令市では「法律婚と異なる対応はすべきでない」と定期的な確認はしません。松本議員は、3年ごとの確認事項は取り除くべきと求めました。また、素案では、カップルの子どもについては認める制度になっていないことから、子どもを

## 答弁ダイジェスト

**松本議員：**定期連絡に何も返事がないカップルにどのような対応を検討しているのか。

**小原副市長：**3年ごとの定期連絡は制度の信頼性を確保することと、サービスの情報提供やお困りごとのニーズ把握のためだ。対象者の要件に該当しない、もしくは虚偽の事実が判明した時には当然受領証の返還を求める。

**松本議員：**悪用されないよう徹底的に調べようという姿勢は絶対にやめるべきだ。今回ファミリーシップ制度がないもついで、パートナーの子の保育園の迎えで（家族として）認めてもらえないことや、パートナーの子と養子縁組をすると、この子の親権は養子縁組した方に移り、カップルを解消した時に親権が戻らなくなるという弊害がある。  
(2面につづく)

**小原副市長**：市独自の制度で法的効果はなく、その子ども  
の意思確認についても第三  
者が関与する仕組みではな  
い。子どもを含めた制度にす

るには十分慎重な検討が必要  
だ。

**松本議員**：自分の意思で自  
分の親だと言える年齢に達し  
ていたら認める自治体もあ

る。愛し合う二人が結婚した  
い、ただ家族として生きてい  
きたい、それを国が認めない  
のは不当な差別だ。同性婚を  
認めても社会は何も変わらな

いし、幸せになる人が増える  
だけだ。そういった観点で寄  
り添い、よい制度をつくるべ  
きだ。

# 「消費税減税」「インボイス中止」を国に求め、 経営困難な事業者へ支援を

## 質疑 項目

1. 物価高などで苦しむ市内事業者支  
援について
2. 六甲アイランドの活性化について
3. 神戸製鋼石炭火力発電所について

原油高や物価高に加え、イン  
ボイス制度の導入やコロナ  
時の融資返済が求められる中  
で、多くの事業者が経営困難  
となっています。事業者の皆  
さんからは、「消費税減税」  
と「インボイス中止」を求め  
る声があがっています。現在  
日本は長期の経済低迷・国民  
生活の悪化の中にあり、その  
大きな原因は繰り返されてき

た消費税の増税です。西議員  
は、消費税の減税こそが物価  
高騰から市民の暮らしを守り、  
市内経済を立て直すために最  
も有効な中小事業者対策だ  
と追及しました。また、阪神  
電鉄が御影高架下の旨水館  
などに一方的に退去を求めて  
いる問題で、事業者らの立場  
から市が話し合いに関わるよ  
う求めました。

## 西議員が 一般質問



は承知しているが、消費税減  
税は国が判断することだ。

**西議員**：事業者からは電気  
代や家賃などの直接支援を求  
める声があがっている。市と  
してこの声に応えるべきだ。

**今西副市長**：市だけでなく、  
国県との連携によって展開  
していくことが重要だ。

**西議員**：御影の旨水館で話  
を聞くと、地域に密着した商  
店だから、物価が上がっても  
価格転嫁ができないと言う。  
こういった神戸経済を支えて  
いる皆さんが新たな支援を必  
要としている。

**今西副市長**：市でも経済・  
各種業界団体との意見交換を  
している。今後も国県の施策  
の動向も見極めながら必要な  
支援策を検討していきたい。

**西議員**：現下で起こっている  
状況には対策せず、バス料  
金・水道料金の値上げでさら  
に事業者の生活が苦しくなる。  
三宮周辺はバス料金を安くした  
のは、まちづくりに寄与して  
るからというが、本来多くの  
事業者がそうだ。その皆  
さんの経営を応援する姿勢  
で支援をすべきだ。

## 答弁ダイジェスト

**西議員**：消費税は社会保障  
の安定のためとしてきたが、  
国保料・介護保険料は軒並み  
上がり、年金は下がっている。  
そのうえ今年10月からイ

ンボイスまで導入された。神  
戸の事業者を応援するために  
消費税減税とインボイスの中  
止を国に求めるべきだ。

**久元市長**：中小事業者の皆  
さんが決して楽ではないこと

## 六甲アイランド

# 住みやすいまちづくりを目指すなら、 住民の願いに応えた施策を

六甲アイランドでは、「学  
童の過密解消」や「給食をも  
っといいものに」といった子  
育て環境の改善を求める声  
があがっています。また、「バ  
スやライナーが高い」という  
交通に対する願いも強くあ  
ります。西議員は、神戸市が

「子どもから高齢者まで、誰  
もが住みやすいまちづくり」  
を掲げるのであれば、学童保  
育の拡充や、バス事業者への  
敬老・福祉パスの適用を求め  
るなど、住民の願いに応える  
べきと求めました。

か。

**小原副市長**：登録児童数が増  
えてきているのは指摘の通り  
だが、増加に合わせてコー  
ナーの新設や専用棟を確保す  
るなど充実も進めているので、  
条例・ガイドライン基準は  
守られている。

**西議員**：市の実績では子育て  
環境の項目の進捗だけが遅  
れている。正面からこの問題  
に向き合い、必要な施設をつ  
くって子育てしやすい街だと  
胸を張って言えるようにして  
ほしい。みなと観光バスは、  
島から出るためにも大事なも  
のだ。敬老・福祉パスの適用  
を進めるべきだ。

**小原副市長**：敬老・福祉パ  
スの適用にはさまざまな課題

があり、関係する交通事業者  
との協議を丁寧に進めていく  
必要がある。現在対象となっ  
ていない路線バスにも実現し  
ていけるように引き続き取り  
組みを進めていきたい。

**西議員**：社会的参加と真剣  
に向き合う時代にきている。  
高齢化も進み、街としての魅  
力を考えた時に、山と海に囲  
まれた神戸で安心して移動で  
きることが神戸の強みになっ  
てくる。そして同時に身近な  
ところに必要な施設がほしい  
という思いにも応えるべき。  
今神戸市は人口減少といわれ  
ているが、本当の意味で活  
性化させるには市民を応援す  
ることだ。

## 答弁ダイジェスト

**西議員**：先日、向洋児童館  
で一番の問題を聞いたら「狭  
いこと」だと言っていた。実

際6年間で生徒数は1.7倍に  
増えている。神戸市のアンケ  
ートでも子育て施設の拡充が  
求められているのではない